

伯和商時報

伯和商時報社
電話 七四六〇
電報掛號 五五〇〇
發行所 伯和商時報社
電話 七四六〇
電報掛號 五五〇〇
印刷所 伯和商時報社
電話 七四六〇
電報掛號 五五〇〇

本紙の発行所は、
伯和商時報社
電話 七四六〇
電報掛號 五五〇〇
印刷所は、
伯和商時報社
電話 七四六〇
電報掛號 五五〇〇

悲惨・飢餓線上に喘ぐ大英國 獨の封鎖愈よ峻烈 食糧確保に努力せよ！

應召兵の農絶叫 告警大重で院下ドイ



【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

獨の食糧封鎖作戦は、未だ見られなかつた程度のもので、即刻思ひ切つた措置を講じない限り、極めて憂慮すべきものがある、大英は十九ヶ月間に、英國は既に五百五十万噸の船舶を失つた、これは戰前に比し、同期間の損失十八十萬噸に比すれば、實に著しい増加である、獨の食糧封鎖作戦は、英國の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。



兵視監と砲岸海士本英るす機待てへ備に襲來軍獨

米と獨伊俄然緊張

在米獨伊資金の凍結政行か

ユーゴ・愈よ戦時態勢

米海空軍が愈々シンガポール使用せん

獨伊の米政府拒絶

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

主要議題は米のシンガポール使用問題

英米軍首脳比島合戦内容消息筋の観測

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【ロンドン三日同盟】英國の食糧不足は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

商相、企劃院總裁の更迭斷行 新商相に豊田中將 企劃院總裁は鈴木中將に決定



相商前林小 右てつ向
裁總院劃企前野星 左

【東京四日同盟】商相の更迭は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【東京四日同盟】商相の更迭は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【東京四日同盟】商相の更迭は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【東京四日同盟】商相の更迭は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

永井柳太郎氏起用さる

【東京四日同盟】永井柳太郎氏は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【東京四日同盟】永井柳太郎氏は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【東京四日同盟】永井柳太郎氏は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【東京四日同盟】永井柳太郎氏は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

二人草三郎

【東京四日同盟】二人草三郎氏は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

【東京四日同盟】二人草三郎氏は、獨の封鎖作戦の春期攻撃に依つて愈々危機に直面しつつあると傳へられる折から、三日の英下院に於いて、ロイドジョージ翁は、現下の食糧不足に對して斷乎たる措置を講ぜねばならぬ、と左の如き重大警告を發した。

電話二一八四
有田 豊次郎
小橋 清太郎
中熊 一男

焼浦まおう
 前野坂舞鶴岡島
 社會式株品食湖名浪
 多果樹園
 易く、特に水が揚がる時、
 るポンプにも断然優る。
 詳細の説明は問合せ下さい。
 時報商事部

ラテン
アメリカ 諸國海軍長官會議

米既に招待發す！

【華府三日發ヘーバス電】
北米政府が聞かんとするラテ
官は各々ルーゾベルト大統領
以て渡米の筈であるが、各長
前にスターク作戦部長の出迎
を受け特別宿舍を提供される
筈である

伯國刻下の必須事は
新海軍基地の増設、

海聲

北米海軍筋に大衝動

【華府三日發】ロイター電の報する處に依れば、ギリエス・伯相が、北伯里察の途次發表した伯里察は、既設の海軍基地の強化と、北伯リナタール港を申請する海軍基地設置を陛下の必須事であるとの聲明は、北米海軍筋に異常なるセンセーションを起し、驚愕たる興奮を喚起してゐる。

聖市ツ兒縮み上る？

一昨日聖市に小地震



テ・デ・アブリール、マル
ダイングの上層に湧た油
慌てふためにルアに

若き力第一線に躍動

ト・バラス産組青聯結成

北バラン、トレス、バラス移住地に於ては、過激派チヤで行はれた劇中劇で、警察に料金を受けて歸附せざる由、推出、佐々木、岡野の四君によつて同地へ理解ある識者の協力 demands、産組組合の緊要

結成の要と、組合構想の範疇普及を計るべく、青聯連を組織した。その翌年、五月、去る廿一日午後二時より開演會館に於て産組組合代表の結成が舉行された。産組の結成に對し、以上

辻本、椎澤、古澤、廣氏としての代表の辭に、新成立の組織を確めた。あつた。劇中劇の結成、職員本庄、長崎、堀江、市強、岡澤、同様に以上の諸君が當選した

新
土を拓く人
(23)

水野龍の渡伯
(一)

公衆の云が、
く、日本移民は
新洲に於けるは一
千九百一十年七月
戦後移成と同時
に於けるは、ヒッ
ダグット道務官事
終了
共一千九百五年
は移民
ある。
野田が社長になつた機に聞
いてゐる。
水はがラジに於ける
に際し一團米移成の銀行を
と云ふバンパの銀行を四
方に配た。これは野が皇
族御會社社長となると同時に
活んで居つてあつた
は日本人の食糧として
而て、日露戦争に際
穀類の及々たる失散を
決の救と爲して、云
の夢を燃るべしと云
の夢を書いてあつた

伊船[”]テレーザ號

リオで差押へ處分
伯國憲兵十數名が監視中

運悲の“鳥の籠”

肉二ミル八百！
主婦部隊やつと安心
かふけ

産業振興に損失甚大

地方官民の聲漸く高し
奥ノ口に新鐵道敷設

今後一切衣がへ

麻廢し棉布使用
農相の國內消費促進策

であるに鑑み、之が國內
策として、他の用途

「四万百六梱

在バライー
クは四萬百

今朝ルス驛着
萬六千九百廿三キロに達
と
重要商品市

エビオス

1

União de Transportes
 Intermunicipal Ltda.
 "UTIL"
 Av. Rangel Pestana, 64 São Paulo
 (Esp. R. 11 de Agosto
 Tel. 3-4729)

SANTOS S. VICENTE
 R. Martin Afonso, 44 R. Martin Afonso, 132
 Tel. 7220 Tel. 297

旗幟豊かなサントス、
 サンビセンテへの銀行
 は是非安楽廉價の弊社
 乗合を暢利用下さい。

都市—サントス間
 片道八軒
 片道九軒
 エンコンメダを取扱ひ
 又貨物にも取扱ひます。

平 常 日
 六四一・二九七
 四一四四一五五
 五五五五五
 日
 八五五七六六
 〇四四四一五五
 五五五五五
 日
 六四一・二九七
 四一四四一五五
 五五五五五
 日
 八五五七六六
 〇四四四一五五
 五五五五五

マンデオカ 五〇キロ
 砂糖 六〇キロ
 七二 七三
 七上 七六
 アルファファ 一キロ
 七〇
 七三
 七四
 七五
 七六
 七七
 七八
 七九
 八〇
 八一
 八二
 八三
 八四
 八五
 八六
 八七
 八八
 八九
 九〇
 九一
 九二
 九三
 九四
 九五
 九六
 九七
 九八
 九九
 一〇〇

[illegible]

六級 全	五級 全	四級 四〇〇	三級 四〇〇	二級 四〇〇	一級 四〇〇	全 全
買 値	買 値	買 値	買 値	買 値	買 値	買 値
全 全	全 全	全 全	全 全	全 全	全 全	全 全
賣 値	賣 値	賣 値	賣 値	賣 値	賣 値	賣 値
全 全	全 全	全 全	全 全	全 全	全 全	全 全
買 値	買 値	買 値	買 値	買 値	買 値	買 値
全 全	全 全	全 全	全 全	全 全	全 全	全 全

延長線土地

スイヤ耕地の土地外各所
借地シヤカラ市街地等々
右好條件にて御世話致しま
す

御問合せは左記へ

マツリア市
サン・ペイス街五六三番
電話 五、一三三

中平三夫

何時でも御視察の
御案内致します

新地域分譲開始

聖市郊外

イタケーラ植民地

會社は既設地域が殆ど満員の盛況を呈しましたので茲に新地域の分譲を開始しました。新地域は全部マツに覆はれアフリカンツリーバ河其の他の細流に沿ひ、地味肥沃にして、果樹トマタ等の栽培及び養蠶等に適し、聖市への交通至便にして有望なる將來を有する場所なるを以て、親愛なる日本人諸君の都つて入植せられん事を希望致します。

御郵會は日本文で送受びありませんから左記宛に
 Cia. Commercial Pastoral e Agricola
 REGISTRO No. 5
 R. Boa Vista, No. 127 - 1º, Av. da S. S. No. 105
 Caixa Postal, 2749 - São Paulo



大阪商船

發着廣告

アリカ横由	本日本	アリカ横由
ありぞな丸	東亞丸	ありびあ
サントス號 四月 十三日	サントス號 四月 廿八日	アリカ横由
神戶着 六月 五日	横濱着 六月 廿二日	ありびあ
サントス號 五月 廿八日	サントス號 五月 廿二日	ありびあ
横濱着 六月 五日	サントス號 五月 廿二日	ありびあ

Organização do Departamento Nacional de Saude

EXPOSIÇÃO DE MOTIVOS ENCAMINHADA AO SR. PRESIDENTE DA REPUBLICA PELO SR. MINISTRO DA EDUCAÇÃO

RIO, 3 (pejo telephone) — Encaminhando ao sr. Presidente da Republica o projecto de decreto-lei dispondo sobre a organização do Departamento Nacional de Saude, que acaba de ser promulgado o sr. Ministro Gustavo Capanema fez o acompanhamento da seguinte exposição de motivos:

«Sr. Presidente: Tenho a honra de apresentar a v. exe. um projecto de decreto-lei dispondo sobre a organização do Departamento Nacional de Saude.

Não se trata de fixar ramos diferentes ao contrario aos da reforma proposta a v. exe. em 1935, e consubstanciada na lei n.º 378, de 13 de janeiro de 1937. Procura-se, antes, no terreno da administração da saude conservar as bases daquella reforma, dando porém ao sistema dos organos administrativos relativos ao problema, a configuração e o ordenamento que a experiência tem apontado como o mais adequado.

Dois são os principios que inspiram a realização ora proposta.

Em primeiro lugar o principio da maior coordenação. Segundo o sistema vigente o Departamento Nacional de Saude, pertence ao grupo dos ramos de direcção e os serviços destinados a realização das actividades concernentes a saude, ao grupo dos ramos de execução.

Entre os primeiros e os segundos, pode haver ou deixar de haver articulação segura e permanente. O projecto introduz no conjunto desses organos, mais forte coesão. Define a estrutura do Departamento Nacional

de Saude, em termos de maior co-ordenação conferindo-lhe o caracter de um sistema unico, de repartições e actividades. Fora de duvida que esta regra de unidade, representa um passo a mais no sentido da eficiência administrativa.

Em segundo lugar, o principio de maior actuação. Nos primeiros annos de sua existência por insuficiência de recursos, ou de processos, não pôde o Ministério da Educação e Saude, cooperar em materia de saude no plano nacional. Os seus serviços estavam limitados ao Districto Federal, tendo de pequena projecção, os esforços porventura empregados nas outras unidades federativas. A reforma proposta em 1935 buscou a este respeito nacionalizar o Ministério. Mas a firme decisão assentada por v. exe., na entidade de empurra a actuação federal, junto aos problemas da saude, de modo que ella deixasse de considerar referentemente o Districto Federal, para abranger, de maneira systematizada, todo o territorio nacional, foram tomadas iniciativas e providencias, notadamente a partir da vigencia do regime de 10 de novembro, destinadas a dar um lado, a transferir a administração municipal da capital da Re-

publica os encargos de natureza local e por outro lado a instituir e desenvolver serviços que fossem alcançar os mais distantes pontos do paiz. São sobretudo dignos de nota, os esforços empreendidos em materia de organização sanitaria e de combate ás grandes endemias (a lepra e a tuberculose, a febre amarela, a malária e a peste). O projecto ora proposto, procura acentuar as bases de solidificação do trabalho desenvolvido, dando ao Departamento Nacional de Saude, um sistema de organos adequados não só a manter mais ainda o desenvolvimento dos empreendimentos de caracter nacional.

Representa, como se vê o projecto de decreto-lei menos um traçado de perspectivas novas, menos uma promessa de novas realizações, do que uma consolidação da experiencia, realizada, de uma systematização dos esforços já empreendidos. E, pois, um trabalho essencialmente de sentido realista e pragmatico.

Apresento a v. exe. os meus protestos da mais viva estima e profundo respeito.

Segundo se divulga, para dirigir o Departamento Nacional de Saude, foi escolhido o dr. Barão Barreto.

Mais asas para o Brasil

Agora é o "Lar Brasileiro" que oferece um avião para a juventude de Marília

RIO, 2 (pejo telephone) — Continuando a repercussão em todo o paiz, com uma verdadeira mobilização de todos os homens de boa vontade, a campanha para doar aviões de treinamento á mocidade brasileira.

O apello do sr. Salgado Filho, ministro da Aeronautica por intermedio dos «Diários Associados», encontrou a mais profunda e sonora resposta da mais se eleva o numero de aviões doados aos Aero Clubes e diversos Estados.

A nação acompanha com entusiasmo esse bello movimento, que vem orar a gloria realizada pelo presidente Getúlio Vargas em favor da viação nacional. Dar asas ao Brasil não só, realmente uma das preoccupações do chefe da Nação e ao sr. Ministro da Aeronautica o seu pensamento foi de ordenar nesse sentido todos os esforços.

As varias figuras de projecção de ossos circulos sociais, empresas e instituições trouxeram sua generosa contribuição á campanha em pleno desenvolvimento, e ainda hoje temos a registrar a doação de mais dois aviões.

A OFERTA DO «LAR BRASILEIRO»

O sr. Pedro Corrêa de Castro, em nome do «Lar Brasileiro», acaba de oferecer um avião destinado ao Aero Clube de Marília, em São Paulo.

Aquella poderosa instituição, que om a Sul America, está ligada aos olavéis empreendimentos da familia arragoje no Brasil, já deve o Rio de Janeiro o extraordinario surto de suas construções modernas que embelezam todos os seus bairros. Graças ao seu sistema de financiamento a velha cidade se transforma rapidamente e apresenta outra physionomia.

O AERO CLUBE DE MARILIA

O avião doado pelo «Lar Brasileiro»

que assim participa de mais um movimento nacional, será entregue como trizamos, ao Aero Clube de Marília, que possui um dos maiores e mais bellos campos de aterragem do paiz. Conta já com 22 aviadores trevados que por falta de aviões de treinamento se foram para o Aero Clube de Garça.

Posque ainda o Aero Clube de Marília 22.900\$300 em caixa, que seria applicados no pagamento de horas de voo á rapazes pilotos. O «Lar Brasileiro» ao oferecer um avião a esse Aero Clube, ligou o seu nome a grande iniciativa da criação de poderosas forças aéreas nacionais.

Autorizada a cessão de parte das acções da Companhia Siderurgica

RIO, 3 (pejo telephone) — Autorizando a cessão de parte das acções ordinarias da Companhia Siderurgica subsidiadas pelo Theatro, o Presidente da Republica assignou o seguinte decreto-lei:

«Artigo 1.º — Fica o Ministerio da Fazenda autorizado a ceder a empresas nacionais e a cidadãos brasileiros, parte das acções ordinarias que o Theatro Nacional subscriver na organização da Companhia Siderurgica Nacional, realizada a primeira prestação de 20 por cento e pelo valor desta.

Parágrafo unico — Os cessantes pagarão á Companhia as prestações subsequentes nas épocas que forem por ella annunciadas.

Artigo 2.º — Os institutos e pensões e aposentadorias dos industriarios, dos commerciantes e dos bairros, e as caixas economicas federais do Rio de Janeiro e de São Paulo ficam autorizadas a subscriver as acções preferencias da Companhia Siderurgica Nacional.

Parágrafo 1.º — Enquanto os lucros liquidados da companhia, apurados annualmente, não permitirem as distribuições de dividendos de cem

MENOS FARINHA E MAIS LEITE

Interessantes dados estatísticos fornecidos ao Ministro do Trabalho pela Administração do S. A. P. S.

RIO, 2 (Via Vasp) — Com a criação do Serviço de Alimentação da Presidencia Social a produção do trabalhador estende-se a um dos seus sectores mais importantes, qual o de proporcionar ás classes onerarias alimentação barata e, o que é mais regional, como vem acontecendo desde a instalação do primeiro restaurante popular nesta cidade. Os resultados dessa verdadeira politica de educação alimentar, já estão sendo colhidos principalmente no que diz respeito á espedida compreensão dos seus beneficiarios.

No seu ultimo despacho com o Conselho Director de S. A. P. S., o Ministro do Trabalho teve oportunidade de conhecer interessantes dados estatísticos sobre o assumpto as quaes demonstram a compreensão do nosso trabalhador em relação ás iniciativas governamentais que visam o seu bem estar.

Ao Ministro do Trabalho forneceram o presidente, sr. Alexandre Moscoso e os directores srs. Edson Cavallanti, Heijon Povoda Ulhoa Cintra e Paulo Senra uma estatística de consumo de feije e farinha no restaurante da praça da Bandeira, pela qual se verifica como em tão pouco tempo já se modificou a mentalidade de uma numerosa massa de trabalhadores a respeito da alimentação.

Em dezembro ultimo, por exemplo, a frequência de 34.929 pessoas, 612 recusaram feije, a percentagem foi então de 1,47. Em janeiro por essa percentagem desceu para 1,30 ou seja: 558 recusou numa frequência de 43.196. Demonstrando ainda mais a preferença que o consumo de feije vem obtendo, o numero de recusos em fevereiro foi de 470 para uma frequência de 41.335, dando uma percentagem de 1,14.

Enquanto o feije passa a figurar na alimentação do trabalhador, com um maior consumo, a farinha torna-se menos preferida, como se vê dos seguintes dados: em novembro o consumo foi de 593 kilos para uma frequência de 1,14.

Conselho Nacional de Educação

RIO, 3 (pejo telephone) — O Conselho Nacional de Educação realizou mais uma sessão plenaria.

No expediente foi lido o parecer da comissão de ensino superior sobre a legalidade de inscrição do concurso para provimento da carreira de hydroaulica hydroaulica-urbano e saneamento na Escola Polytechnica da Universidade de São Paulo.

Foi unanimemente approved o parecer da comissão de ensino superior sobre o relatório annual do inspector federal junto á Escola Paulista de Medicina no anno de 1938, concludindo pelo seu archivamento.

Por falta de numero legal levá a votação adiada, o parecer da Comissão de Ensino Secundario, sobre a inspecção permanente para o Colégio «Progresso» de Araraquara nesse Estado.

Por ter pedido vista do respectivo processo o conselheiro Leitão da Cunha, foi adiada a discussão do parecer da comissão de legislação social registro dos diplomas de architectos formados pelo extincto Curso de Architectura da Escola de Bellas Artes de São Paulo.

O NOTICIARIO ESTRANGEIRO DO «NOTÍCIAS DO BRASIL» E FORNECIDO PELA AGENCIA TELEGRAPHICA «DOMESTIC JAPANESE»

CONGRESSO INTER-AMERICANO DE JORNALISTAS

MONTEVIDEO, 2 — Por via aérea — Comentando a iniciativa do Presidente dos Estados Unidos da Venezuela de promulgar um decreto dando o apoio oficial necessario á preparação de um Congresso Inter-Americano de Jornalistas, que se deverá reunir em Caracas, em dezembro de 1942 o jornal «La Manana» escreve:

«A iniciativa do primeiro mandatario venezuelano vem preencher uma das maiores lacunas até agora existentes dentro das poderosas correntes de aproximação que dominam no Novo Mundo.

A imprensa continental precisa, de modo indispensavel, dessa aproximação, tanto sob o ponto de vista physico, dando a seus membros a oportunidade de estabelecer veiculos pessoais de estimavel importancia para a melhor compreensão reciproca dos problemas de todos estes paises, como sob o ponto de vista espiritual, em que é preciso reunir idéas e consagrar principios comuns para sustentá-los nas campanhas diarias, em defesa dos ideais americanos.

Convém assinalar a importancia que o jornalismo exerce sobre a evolução da mentalidade dos povos. A época actual, com o rythmo vertiginoso que se impõe em quasi todos os circulos da vida, obriga uma grande parte ou talvez a maioria dos homens a dispensar-se do estudo dos problemas sociais que não affectam de forma directa ou immediata sua situação pessoal. Por isso á análise detida, ao estudo minucioso sobre qualquer dos referidos problemas, preferem para illustração do seu juizo e fundamento da sua opinião, a synthese de um commentary jornalístico, no qual em breves linhas se decifram todos os seus aspectos e se oferecem bases acceptaveis para sustentar uma critica definitiva a tal respeito.

Por isso á imprensa, quando é como deve ser, uma forte condutora da opinião publica assignando sem titubear o caminho a seguir nos momentos de desorientação, chega a converter-se numa das forças mais poderosas da sociedade, capaz de influir de forma decisiva sobre as atitudes dos povos e o destino das nações.

As repubblicas americanas que em nossos dias, têm especialmente o objectivo de actuar com esforços conjugados eparallos, como unico meio de assegurar a todas e a cada uma delles um futuro venturoso de liberdade justiça e cultura devem manter-se em estreitas relações com os seus homens de imprensa, para que a mesma idéa oriente as suas campanhas e para que seja mais ampla a visão do panorama continental para aqueles que com tanta frequência se occupam aos problemas afinentes ás relações entre estes paises.

Por tudo isso consideramos muito acertada e digna de elogio a iniciativa do governo venezuelano que promove este commentary e esperamos que todos os diários e todos os jornalistas do continente lhe prestem caloroso apoio, afin de que com a sua realização possam ser plenamente alcançados os nobres e elevados, fim que a inspiraram.

O EXPEDIENTE DO BANCO DO BRASIL NA SEMANA SANTA

RIO, 3 (pejo telephone) — Foi affixado hoje no Banco do Brasil o seguinte aviso: «Nos dias 10 e 12 do corrente o Banco do Brasil observará o seguinte expediente: dia 10, funcionará das 10 ás 12 horas e no dia 12, das 10 ás 12 horas apenas para o serviço de cobranças. No dia 11 não haverá expediente por ser dia santificado.»

Infracções da lei do salario minimo

RIO, 2 (Via Vasp) — Quando o Presidente Getúlio Vargas decretou o salario minimo era frequente a declaração que embora reconhecendo as vantagens que a iniciativa apresentava sob o aspecto theorico, vehicula a duvida de que ella tivesse accedição na pratica dada a complexidade do problema que a agitava. Mas, o Ministerio do Trabalho, sob a direcção segura do sr. Waldemar Falcão, chefe da s. a. «empresamento» e realizou uma série de investigações technicas que forneceram elementos authenticos para a determinação dos tipos de remuneração mais baixa.

Ainda assim perdurou relativa descrença. Entretanto, os factos que a pouco e pouco se registam, distribuindo-se por todo o paiz, parece indicar exactamente o contrario. O movimento observado por occasião do Natal estampou nas vendas effectuadas pelo commercio varejista um visivel augmento na capacidade requisitiva da massa popular. Agora, o Serviço de Fiscalização e Estatística do Trabalho, no Estado do Rio de Janeiro, verificadas na ultima semana de março. Pois bem, enquanto registou 165 firmas que não haviam realizado o seguro contra accidentes, 35 que trabalhavam mais que o periodo normal de 8 horas, somente em controu 5 que não respeitavam o salario minimo para 4 que se achavam com as férias em atraso. A proporção é sensivel e significativa.

Êxodo

Êxodo da população rural para as cidades. A migração em massa para as cidades, especialmente para São Paulo, Rio de Janeiro e Minas Gerais, continua a ser um fenómeno notável. Os motivos são diversos, incluindo a busca de melhores condições de vida, educação e emprego. A falta de oportunidades no campo e a atração das cidades por seus serviços e infra-estrutura são fatores principais.

Região de cultivo de arroz

Região de cultivo de arroz. A produção de arroz no Brasil, especialmente no sul e sudeste, enfrenta desafios devido às condições climáticas e à falta de infraestrutura adequada para a irrigação e o transporte. A melhoria das técnicas de cultivo e a construção de obras de infraestrutura são essenciais para aumentar a produtividade e garantir a segurança alimentar.

Frutificação

Frutificação. A colheita de frutas e legumes está em andamento em várias regiões do Brasil. A produção é abundante, mas a distribuição para as áreas urbanas ainda enfrenta dificuldades devido à falta de meios de transporte eficientes. A melhoria da logística é necessária para garantir que os produtos cheguem frescos e a preços acessíveis aos consumidores.

Calendário

Calendário. O calendário agrícola para o ano de 1941 está sendo elaborado com base nas condições climáticas e nas necessidades das diversas regiões. O calendário inclui datas importantes para o plantio, a colheita e as festividades tradicionais, visando orientar os produtores rurais e garantir o sucesso das atividades agrícolas.

Publicidade para produtos agrícolas e serviços. Inclui anúncios para fertilizantes, pesticidas e equipamentos agrícolas, bem como serviços de consultoria e assistência técnica para produtores rurais. O texto destaca a importância de utilizar produtos e serviços de qualidade para aumentar a produtividade e a sustentabilidade das operações agrícolas.